

2014 Annual Report

私たちは、すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、
困難を抱える少女が暴力を受けたり、
搾取労働に行き着かなくてよい社会を目指して活動しています。

Colabo



すべての少女に「衣食住」と「関係性」を。

少女から搾取しない社会へ

私たちは、社会的に孤立し困窮状態にある

少女を支える活動を行っています。



私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。

家族との仲は悪く、教員ともうまくいかず、街を彷徨っていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には、同じように「居場所がない」と集まっている友人がたくさんいました。

私は、かつての私のように家庭や学校、他のどこにも居場所がないと感じている高校生を“難民高校生”と呼んでいます。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所を失くした“難民”でした。

家庭と学校の往復を生活の軸にしている中高生は、限られた人間関係しか持っておらず、そこでの関係が何らかのきっかけで崩れると、すぐに孤立してしまいます。“難民高校生”には、誰でもなる可能性があるのです。

そうした少年少女が見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、未成年の少女たちの売春斡旋や、暴力、望まない妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。

このままの生活を続ける以外にどんな選択肢があるのかすらわからないまま、そうした生活を続けるうちに、ますます“難民生活”から抜け出せなくなってしまいます。

問題の背景には、「関係性の貧困」があります。私たちは、安心して眠ったり過ごせる家、帰りたいと思える家がない少女、誰かと食卓を囲む体験や、困ったときに頼れる関係性を持たない少女たちと出会っています。彼女たちに必要なのは、特別な支援ではなく「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと考えています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行き着かなくてよい社会を目指して活動を続けます。

2013年3月1日
一般社団法人Colabo

代表 仁藤夢乃



2014年度 活動報告

2014年度 活動概要

○相談事業

・相談者数 84名
(うち、新規相談者65名)

・相談方法

面談 89件

電話 172件(約43時間)

ライン 327件(10986通)

SNS 38件 (60通)

・同行支援 14件

(警察2/児相2/家庭1/病院3/職場見学1/学校見学1/IR-ワーク1/勉強会3)

・物資提供 52件

・宿泊支援 8件

○食事提供

・提供回数 50回 59名

○ユーススタッフ活動

・参加者数 8名参加

○難民高校生を贈ろうプロジェクト

・76名に贈呈

○夜の街歩きスタディーツアー

・開催数 34回

・参加者数 202名

目次

■2014年度活動概要	2
■夜間巡回・相談事業	3
■食事提供支援	5
■ユーススタッフによる活動	6
■啓発事業	7
■夜の街歩きスタディーツアー	8

■メディア掲載・出演	9
■スタッフ紹介	10
■Colabo活動の歴史	11
■2014年度会計報告	12
■会員・助成金・物品応援	13
■ご支援のお願い	14

夜間巡回・相談事業

週に数回深夜の街を巡回し、少女に声をかけ、繋がっています。
また、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

夜間巡回

相談者数

70.84

回 名



相談者の属性と現状

■相談者属性

小学生 …… 1名
中学生 …… 4名
15～19歳 …… 76名
(うち、男子3名)
20～23歳 …… 3名

相談は全国から寄せられ、首都圏以外在住の少女からの相談も21名ありました。

東京、神奈川、千葉、埼玉を中心に、北海道、宮城、福島、石川、茨城、群馬、静岡、愛知、和歌山、大阪、京都、福岡、長崎、熊本などで少女と出会い、関わっています。

■相談内容

家族関係 …… 79件
学校関係 …… 38件
人身取引 …… 58件
精神面 …… 52件
妊娠・中絶 …… 9件

家族からの暴力やネグレクト等、虐待に関する相談が51件。中でも、実父や親族からの性的虐待を受けている少女との出会いが重なりました。その他、親の自死や、家庭の経済状況(貧困)に関する相談や、社会的養護を受けて児童養護施設などで暮らす少女からの相談も4件ありました。

学校関係では、友人や教員との関係の他、高校中退に関する相談が13件。

人身取引、性的搾取の被害にあった少女

■相談方法

面談 …… 89件
電話 …… 172件(約43時間)
LINE …… 327件(10986通)
SNS …… 38件(602通)

からの相談も多く、JKビジネスに関わる少女が58名、個人売春をしている少女が23名、斡旋者の下で管理売春をさせられている少女17名とも出会いました。知的障害・発達障害の少女が狙われ搾取されているケースもありました。

強姦や強制わいせつなどの性被害に遭った少女も38名おり、そうした少女が自傷行為や自殺未遂を行うケースも後を絶ちません。

相談を受けた少女への対応

同行支援

14
件

警察 …… 2
児相 …… 2
家庭 …… 1
病院 …… 3
職場見学 …… 1
学校見学 …… 1
ハローワーク …… 1
勉強会 …… 3

物資提供

52
件

宿泊支援

8
件



同行支援から
見えてきたこと

必要に応じて家庭や警察、病院、児童相談所等への同行支援を行っていますが、各機関では、少女自身が詳細に被害や状況を訴えられなければ、支援を受けることが非常に難しい現実があります。しかし、子どもたち自身が「助けて」と訴えることは容易ではなく、勇気を出して相談しても対応されず、大人を信用できなくなっている少女がたくさんいます。私たち自身も、虐待や性暴力被害に関する知識を深め、理解者を増やしていきたいと考えています。

少女たちの伴走者に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。

困っている人の一番の困りごとは、「助けて」と言えないこと。

「あなたは どうしたい？」と問われても、それがわからないことです。

混乱した生活の中、落ち着いて考えられる環境や、一緒にものごとを整理してくれる人との信頼できる関係性や体験があって初めて、自分の状況を見つめ向き合うことができます。食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に頼れる信頼関係を築いています。半年以上密に関わって初めて、性的虐待の被害にあっていることを話してくれる人もいます。

ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

家庭関係

79
件

学校関係

38
件

人身取引

58
件

性被害

38
件

妊娠・中絶

9
件

精神面

52
件

進路相談

33
件

恋愛相談

11
件

施設内トラブル

4
件

社会的養護を受けている
少女からの相談

「死ぬこと」それが私の夢でした。

Colaboに出会う前、私はポロポロでした。周りの人から傷つけられ、自分でも自分を傷つけていました。夢乃さん、Colaboに出会ってから、少しずつですが「死にたくない。生きたい」と思えるようになってきました。きっと多くの方々が支えてくれていることを実感できたからです。

私は私も将来、辛い思いをしている少女を支えられる人になりたいです！それが私の今の夢です。叶えられるように頑張ります。

宮城県 高校2年 Rさん

食事提供支援

少女たちとともに食卓を囲む時間を大切にしています。十分な食事を取ることができていない少女や、誰かと食卓を囲む機会がなく、孤食を続けている少女と料理をし、出会いや関わりの場をつくっています。

食事提供件数

50.59名

- 食べることができない
- 食卓を囲む経験がない
- 相談のハードルが下がる

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出を繰り返していたり、困難を抱える少年少女の多くは「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と強い気持ちを持っています。その結果、ひとりではどうにもならない事態にまで発展しているケースもあります。

私たちは、そんな少女にまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくっています。

鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない、誰かが料理している所を見たことがないという少女もいます。先日、父親と2人暮らしをする15歳の少女とお好み焼きを食べた時「こんなちゃんとした手料理を食べたのは7年ぶり」と話してくれました。生活保護を受けながら母親と暮らす少女の家には炊飯器もお米もないことがわかり、物資の支援に

繋いだこともあります。食事後にシンクに並んで洗い物をしていると「お母さんとういうことが出来る家にうまれたかったな」と、つぶやく女の子もいます。

食事の場は「相談する」ことへのハードルを下げることに繋がります。困った時に「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「向き合ってくれる大人はいない」という想いが込められています。彼女たちに必要なのは特別な支援ではなく、当たり前の日常です。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談できる関係性、彼女たちがいつでも戻ってこられるホームの1つとなればと活動しています。



Colaboに出会う前は、誰かとご飯を食べることは年に1回あるかどうかでした。

私は母と二人暮らしをしています。家出しようとして荷物を詰めていた時にネットで「女子高生 駆け込み寺」と検索しColaboを見つけて、夢乃さんにTwitterでメッセージを送ったのがきっかけで出会いました。親は気分がいい時は服を買ってくれたりしてくれますが、気分が悪い時(仕事で上手くいかなかった時など)は外で

も殴ったりしてきます。波が激しいのは私も同じですが、普段家でも学校でも、誰とも会話することはなく、自分が存在しているのかわからなくなることもあります。そんなときでも、Colaboのみんなは話を聞いて明るく受け止めてくれます。料理も初めてで、教わりながらつくっています。

いつも食事は1日1食で、コンビニでおにぎりやマフィンを買って食べることに慣れていました。だけど、みんなでご飯を食べることがこんなにも楽しくておいしいということがわかりました。人の暖かさを感じられる繋がりに感謝しています。私も若い女の子を助けられる大人になる。そんな夢も持ちました。

東京都 Sさん 17歳

ユーススタッフによる活動(自助グループの運営)

10代の少女たちが共に過ごす場をつくっています。
同じように悩んできた先輩後輩と会うことで、自分の状況を整理したり、向き合うきっかけとなっています。

活動回数

参加者数

5回 8名

- 女子高生合宿
- クリスマス会
- 年賀状書き
- Colabo通信の発行

少女同士がつながり、語り合い、行動する、支え合いの場。

2014年秋から月1回程度、Colaboが支援する少女同士が食事やイベントを通して出会い、語り合える場、ユーススタッフとして活躍できる場をつくっています。売春の経験や、虐待や性暴力の被害など、普段の関係性の中では話にくいことも安心して話せる場所。「売春をやめたいけれど自信がない」という15歳の少女に、17歳でそこから抜けることのできた少女がアドバイスをしていることや、Colaboのスタッフには言いにくいことを打ち明けるような関係性も生まれています。

体のことや性のこと、社会問題について学んだり、女子高生合宿やクリスマス会など、交流を深める会も開催しています。年末には、

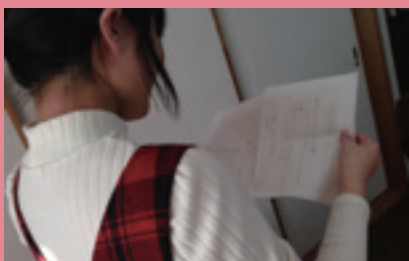
支援者の方への年賀状にメッセージも書きましました。2015年度から大人に伝えたい想いをまとめた「Colabo通信」の発行も担当しています。



支援者の方へ年賀状を書いているところ
「同じように悩んだり苦しんでいる友達はいても、そこから抜け出したお姉さんや同年代に会ったのは初めて。私も大丈夫かも、変わるかも思えた」と女の子。



colabo通信第1号



大人に伝えたいこと—15歳の少女による作文

他人事みたいに笑う大人が嫌い。わからないくせにわかったふりをする大人が嫌い。「仕事なんだから仕方ないでしょ!」はい、どうもすみませんでした。

自分を傷つけたり、体売ったり、そういう所でしか居場所が見つからないから、別の安心

できる場所を探しているのに、否定されたら私は、どうしたらいいの。話を盛ったり、嘘をついたり、悪いことだってわかってる。でも、そうでもしなきゃ振り向いてくれないじゃん。それが、私の本心です。

だけどしだいに苦しくなって、嘘に嘘をつくたびに気持ちが重くなる。そこに気付いてくれる大人はほんと一握りで、そんな大人に出会えたことを、私は奇跡に思う。

いじめをしている中高生は、どうしたら人を傷つけなくなる?先生が怒って、親に報告して、その場しのぎで終わり。売春している中高

生は、どうしたら自分を大事にできる?勇気をもって言ったのに、親に報告をして怒られて終わり。それで大人は満足ですか?

本音で話を聞いて、泣いて、笑って、伝え方は雑だけど本心を見抜いてくれる大人が周りにいて、初めて「変わろう」って思える。でも変わりたくても、なかなか行動に移せなくて悩んでいる時一緒に戦ってくれる大人がいて、初めて一歩を踏み出せる。

この気持を受け止めてくれる大人がたくさんいたら、今を精一杯生きれるのになって、色々な立場、環境の人に伝えたいです。

啓発事業

「困難を抱える高校生」「性的搾取の対象になりやすい少女」「居場所やつながりを持たない高校生」を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。
また、夜の街歩きツアーでも、子どもを取り巻く危険を伝えています。

講演回数

参加者

64回 6510名

- 講演・ワークショップ
- 夜の街歩きスタディーツアー

講演依頼を受け付けて
おります。
詳細はP13へ

「最近の若者はわからない・・・」 「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか？」
一緒に考えてみませんか？

中高生向け



テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、JKビジネスや性について、SNSの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題について等幅広く、中高生の目線に合わせてお話ししています。講演

会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にSOSを上げる生徒も少なくありません。

参加者の感想

● 定時制高校・高1女子

「友達がJKリフレや夜の仕事をさせて、中学んとき自分もやろうとしてた。でも裏の世界で働いている先パイで幸せそうな人もいないし、だからそのために高校も卒業して色々な事を学びたいと思った」

● 全日制高校・高2女子

「人って変わるんだと思った。どんなにやんちゃでも、ひきこもり気味でも、人は絶対変わる。今この場所この時間にいられることがどれだけ幸せか考えさせられました」

● 特別支援学校・高3男子

「しょうじき、ぼくの人生も楽しいといえず、学校に行くのも仕事に行くのもいやです。ぼくには助けてくれる人はいない。1人なんだからって思って、最近は食欲もない、人を信じられない、それでも頑張って生きています」

大人向け



今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話しします。

テーマは、女性の人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性的暴力、インターネットの危険等、さまざまです。

困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちに何ができるのか、一緒に考えます。

参加者の感想

● 70代男性・電話相談員

「知らない世界が生々しく迫ってきた。知らぬ単語が続出し、戸惑い、不勉強かなと思った。10代の使用ツールなど、詳細を話していただけでよかった。我々の時代とは違う生き難い実態を知り、予想以上の現実に驚いている」

● 40代女性・保護者

「女子高生の現状を聞きショックでしたが、その現状を知らなかったことショックでした。子どもが性的対象として消費されている現状。私にも小学生の娘がいるので、母として、女性として、人として、考えさせられました。自分にできることは何か、じっくり考えたい」

2014年講演実績 (敬称略・順不同)

■ 行政

内閣府青少年問題研究会／東京都青少年・治安対策本部／東京都子供家庭総合センター／渋谷区教育センター／横浜市男女共同参画センター／立川市子ども・若者自立支援フォーラム／西東京市人権講座／まちだ男女平等フェスティバル／高槻市／豊橋市ユースアドバイザー養成講座／福岡県添田町人権講座／久留米市男女平等推進センター／北九州市男女共同参画センター／宮崎県保健所・助産師会

■ 民間 (NPO、地域支援団体)

いのちの電話東京・仙台相談員研修会／女性の安全と健康のための支援教育センター／エンパワメントかながわ／人身取引被害者サポートセンター・lighthouse／アジア女性資料センター／ウィメンズネットらいたず／NPOスペースナナ／京都YWCA／NPOヒューマンライツ・ナウ／愛知同宗連／子供の権利条約を進める八王子の会／東京都児童福祉司会／非行に向き合う親たちの会／NPOゆめ・まち・ねっと／NPO D×P／京都山科青少年活動センター／反貧困

ネットワーク東京・ふくしま／サマーセミナー愛知／一般社団法人ストリートプロジェクト／足立区こども・ど真ん中プロジェクト／浦和北ロータリークラブ

■ 学校

早稲田大学／上智大学／カリタス女子短期大学／横浜総合高校／明治学院大学／法政大学／埼玉大学／立命館大学／熊本大学／大東学園高等学校／茅ヶ崎西浜高等学校

夜の街歩きスタディーツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。

目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。

普通の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。

参加者募集中
詳細はP13へ



開催数

34回

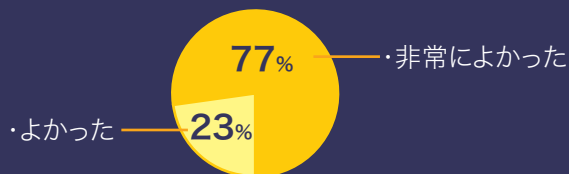
参加人数

202人

■参加者

教員、保護者、児童福祉、
医療、警察関係者など

ツアー参加者の満足度 (アンケート回答者81名)



- ・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた --- 100%
- ・これまで気づくことのなかった現状を知れた ----- 100%
- ・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった --- 75%

参加者の声

今まで何度も通っていた場所が、
全く違って見えるようになりました

少しは知っているつもりで参加しましたが、いつも普通に歩いている街が、少女たちの目からは違う姿をしていたことがわかった。「見ていたのに見えていなかった」自分に気づけたことが一番大きい。街を歩いたあとに詳しい解説の時間があり、理解や議論を深めることができてよかった。

子ども支援団体職員 女性 川原さん

家庭や学校では見えない、
子どもたちの姿がありました

ほんの少し視点を変えただけで、危険な光景が見えてくることに驚愕しました。街で出会った少女と実際に話を交わしたことは一生忘れられない経験になりました。今まで気がつかなかったことに情けなく、教育者として恥ずかしく思いました。無知とは恐ろしいです。今回を機に、どんなに些細なことでも、SOSを見逃さない感覚を研ぎ澄ませて、行動していきます。自分＝「伴走者」である事を意識して、生徒に寄り添うことを優先に、問題を共に解決できる関係性を築いていきたいです。

女子中学高等学校教員 女性 村松さん

繁華街の道端にあるコインロッカー。
ここに着替えを置いて家に帰らずに過ごす少女たちが
確かにいることを、何よりも雄弁に物語っていました

これまで弁護士として、補導・逮捕され少年審判を受けることになった少年にはかかわる機会がありましたが、保護未達の段階でできることはないかと参加しました。こうして街を歩いたのは初めてで、自分がいかにものが見えていないかが分かりました。少年少女の背景を想像し、仕事に活かしていきたいです。

弁護士 男性 伊藤さん

抽象的だった「夜の街の少女たち」の問題を、
自分の肌で捉えられる機会

今まで、ただの雑踏、人の波としか見えていなかった景色でしたが、ひとりひとりの表情が少しだけ分かるようになりました。どんなに経済が豊かになり、表面的には安定した暮らしが送れているように見える日本に大きな闇があること。そこに光が当てられず、そのままの状態では放置されていることに危機感を覚え、一大人として責任を問われていると感じました。自分でも夜の街をもう一度歩いて、より多くのことに気づけたらいいなと思います。そして、日常の場面においても、子どもたちに声をかけられるようにしたいです。

大学生 男性 Hさん

メディア掲載・出演・出版

テレビ出演

- 2015年**
2月 フジテレビ・スーパーニュース「JKビジネスの先は…」
- 2014年**
9月 NHK・ハートネットTV「ブレイクスルー JK・可能性を信じてる」
・NHK・クローズアップ現代「広がる少女売春 JKビジネスの闇」
・TBS・NWES23「SNSで進学校女子も 危険増すJKビジネス」
10月 日本テレビ・news every
11月 BS11・報道ライブ21「JKビジネス 漂流する子供たち」
12月NHK・オトナへのトビラTV「うちのママ、毒ママ？」
・東海テレビ・スーパーニュース
・TBS・ニュースバード
- 2013年**
7月 フジテレビ・とくダネ!「特集:10代の危機-JK産業の危険」
8月 山陽放送・メッセージ「少女たちの素顔」
- 2011年**
7~11月 仙台放送・あらあらかしこ密着取材「女川高校×Colabo商品開発」

ラジオ出演

- 2015年**
1月 NHK・ラジオ深夜便
- 2014年**
4月 文化放送・大竹まことのゴールデンラジオ「JK産業と少女たち」大竹まことさん・真鍋かおりさんと対談
11月 J-WAVE・JAM THE WORLD「少女に迫る・JKビジネス」堤未果さんと対談
12月 ラジオフォーラム「JK産業の実態」湯浅誠さんと対談
- 2013年**
4月 文化放送・福井謙二 グッモニ
7月 ニッポン放送・徳光和夫 とくモリ! 歌謡サタデー

雑誌

- 2015年**
1月 子どものしあわせ「私を育ててくれた人たち」
3月 文藝春秋「日本を代表する女性120人」
- 2014年**
11月 週刊金曜日「なぜ少女たちはJKビジネスに流れるのか」
12月 日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー 若手リーダー」
- 2013年**
7月 日経WOMAN「未来を選ぶチャンスは高校生たちに提供したい」
- 2012年**
高認があるじゃん! 巻頭インタビュー

新聞掲載

- 2015年**
1月1日 女のしんぶん「大人が気づかないSOSにこたえる」
15日 京都新聞「関係性の貧困 大人たちに」
22日 新潟新聞「居場所のない少女たちに寄り添って」
2月2日 京都新聞「孤立する少女たちに何ができるか」
10日 中日新聞「きっかけは孤立や貧困 JKビジネスに警鐘 仁藤夢乃さん」
- 2014年**
1月12日 毎日新聞「不登校など経験、自立への過程語り合う」
4月15日 読売新聞「女性たち性被害の危険 受け入れ先に限界 性風俗へ」
21日 読売新聞「DV後悔と更生」
7月30日 朝日新聞「JKリフレ・お散歩…夏休み用心を 性被害防止 高校生に講座」
8月18日 読売新聞「社会見つめる街歩き」
16日 しんぶん赤旗「居場所のない難民高校生と社会をつなぐ」
9月16日 共同通信「JKビジネス 裏に貧困」
26日 カトリック新聞「さまよう女子高校生たち」
10月25日 ふえみん婦人民主新聞「少女たちは買われていた」
31日 共同通信「居場所のない高校生を支援 大人はもっと関わりを」
31日 週刊読書人「石原俊×仁藤夢乃 少女たちの身にいま、何がおこっているのか」
11月6日 朝日新聞「(インタビュー)「JK産業」と少女たち」
8日 静岡新聞「難民高校生支援を」
27日 神奈川新聞「JKビジネスに潜む闇」
12月17日 日本経済新聞「少女誘うスマホの闇」
- 2013年**
3月24日 朝日新聞「(ひと)仁藤夢乃さん 居場所のない高校生が立ち寄れる居場所をつくる」
9月21日 聖教新聞「『難民高校生』の著者・仁藤夢乃さん」
11月5日 ふえみん婦人民主新聞「難民高校生のリアルを発信する」
- 2011年**
7月23日 河北新報「ミニ大福で地域元気に 女川高校生、菓子会社と商品開発」
29日 河北新報「被災地励ます菓子創作 女川高生徒会が挑戦」
9月10日 河北新報「ミニ大福を共同開発 石巻の被災菓子店と女川高生」
20日 日本経済新聞「東日本震災の被災地、宮城県女川町の女川高校の生徒らが(窓)」
21日 共同通信「義援金付き大福セット 宮城・女川の高校生ら考案」
10月30日 毎日新聞「東日本震災:「ミニ大福セット」人気 県女川高生徒が開発」
11月3日 読売新聞「(顔)被災地の高校生と義援金付き大福を開発した仁藤さん」
5日 共同通信「被災地の高校生考案の大福販売」
18日 読売新聞「緊急連載:学校と震災 義援金付き大福を販売」

ウェブマガジン

- 2014年**
・クリスチャン・トゥデイ「JK産業とストーカー問題」
・Yahoo!ニュース「アイドルになりたい少女や「関係性の貧困」で孤立する女子高校生につけ込むJKビジネス=売春目的の人身売買」
・ウートビ「JK産業は人身取引 少女が商品化される裏社会の実態とは」「相談できる人がいない JK産業で働く少女たちのSOS」
・マガジン9「女子高校生に、つながりと居場所を」「女子高校生もホームレス問題もすべて地続きのこと」
・ひみつ基地「街を彷徨う高校生の実態を学べる”夜の街歩きスタディーツアー”」家庭や学校に居場所を失くし、孤立する高校生-性的搾取や犯罪へ」
- 2013年**
・NewsToMove.com「難民高校生の未来を救え」
・愛育ねっと「難民高校生-絶望社会を生き抜く私たちのリアル」
・リクナビ進学ジャーナル「元・渋谷ギャルが取り組む難民高校生の居場所づくり」
- 2011年**
・ガジェット通信「出会いを創造し、社会を活性化させる-Colabo代表・仁藤夢乃さんの挑戦」

英字新聞

- 2014年**
10月3日 The ASAHI Shinbun「Tour shows dangers facing high school girls in shady 'JK business」
11月4日 JAPAN TIMES「Notorious 'JK' business exploits troubled high school girls for sex」
12月11日 The ASAHI Shinbun「INTERVIEW/ Yumeno Nito: Havens needed for schoolgirls in sleazy 'JK' business」
- 2013年**
4月26日 The ASAHI Shinbun「Former high school 'refugee' supports troubled teens in Shibuya」

受賞歴

- 2015年 日経WOMAN1月号「ウーマン・オブ・ザ・イヤー 若手リーダー」文藝春秋3月号「日本を代表する女性120人」
- 2012年 平成24年度あしたのまち・くらしづくり活動賞「活動奨励賞」



詳しくは下記サイトへ
ダウンロードや記事を読覧できるものがあります。

<http://www.colabo-official.net>

スタッフ紹介

必要なのは、特別な支援ではなく、当たり前の日常。

私たちは、女の子の伴走者となり、日常を積み重ねていきたいと活動しています。



代表理事
仁藤 夢乃

1989年生まれ。中学生の頃から街を彷徨う生活を送り、路上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともある。高校中退後、予備校で出会った故・阿蘇敏文氏(牧師・講師)との出会いから、農業、国際活動に触れ社会活動を始める。2009年明治学院大学社会学部に進学。友人らが路上を彷徨う生活から抜け出せずにいることから高校生に目を向けた活動を始める。

2011年5月「Colabo」を立ち上げ、被災地の中高生・地元企業との協働プロジェクトを実施。宮城県女川高等学校と開発した支援金付菓子「たまげ大福

だっチャ」は3カ月間で約4万個売り上げた(現在も大沼製菓HP等で販売中)。現在、「居場所のない高校生」や「搾取の対象になりやすい青少年」の問題を発信するとともに、日常的な関わりを通して少女の支援を行っている。

2015年より、第30期東京都青少年問題協議会委員を務める。

【著書】『難民高校生』(英治出版)・『女子高生の裏社会』(光文社新書)

【ブログ】 <http://ameblo.jp/colabo-yumeno>

(少女たちとの関わりを綴っています)



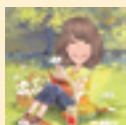
副代表 事業統括マネージャー
稲葉 隆久

2級キャリア・コンサルティング技能士。

米国CCE,Inc.認定GCDF-Japan キャリアカウンセラー

学生時代よりNPOカタリバの活動に7年間携わり、理事を務めた。東日本大震災直後に宮城県入りし、復興支援プロジェクトを統括。不登校やひきこもりの若者支援等も行ってきた。復興支援の現場で仁藤と出会い、意気投合し

Colabo立ち上げから共に活動を開始する。Colaboの活動を通して少女たちの抱える困難を知り、声を上げられない青少年に、親や教師とは違った第三者的な立場から関わることを意識してきた。Colaboの活動や、関わる女の子たちを陰で支える縁の下の力持ち。



絵理
(22歳)

Colaboでは今までにない責任感と充実感を持ちながら活動させてもらっています。なーんにも考えていなかった小学生時代、部活馬鹿だった中学時代、自分を嫌になる高校時代、サークルとNPO活動の大学時代。今年大学を卒業し、目標の社会福祉士になるため進学します。

一番凹み、泣いたとき、ずっと寄り添い一緒に向き合ってく

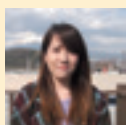
れた人がいました。その人がいなくなったら「私はどうなっていた？」と思うほど、その出来事は私の根幹にあります。辛いときに向き合ってくれる存在は暖かいですね。私も、これから出会う子たちにとってそういう人でありたい。何が出来るかまだわからないけれど、一緒に歩いていこう。



理沙
(23歳)

高校まで関西育ち。2015年春に大学を卒業。人権について学ぶため、大学院進学を考えています。小学校から高校まで一貫校に通っていました。勉強は得意な方で対戦相手は自分自身、マイペースな性格です。狭い世界で育ったけど、学校や10年続けたボーイスカウトで、たくさんの人と出会い

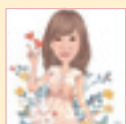
ました。いつも味方してくれる家族はいるけど、素直になれないとき話をきいて支えてくれたのは、そうして今まで出会ってきた大人達と友人たちです。私ももう大人です。これからはこの先出会う女の子たちにとって、「あのときいてくれた人」になりたいと思います。



梨乃
(22歳)

山梨県出身の大学生です。卒業後は、社会福祉士養成の専門学校へ進学を考えています。学生時代は、中高一貫の進学校に通うものの、成績はいつもビリから何番目…?という感じでとにかくのんびり、遊んでばかりいました(笑)そんな私が唯一誇れるもの、それは家族や先生、友人など周りの人に恵まれていたことです。どんなときも私の全てを受け入れ、

一緒に考えてくれました。そんな人たちに支えられ、頼って頼って、今の自分が居ます。だから、今度は私が、これから出会う少女たちにとってそんな存在になりたい!と思っています。いつか、あんなこともあったねと笑って話せるときがくるように。



あきな
(18歳)

私も、Colaboに出会って前を向けるようになった1人です。まだ高校生(4年生)ですが、同じ10代だから、わかることがあると思います。私は過去にどうしようもなく行き詰まったことがありました。その時寄り添って一緒に考えてくれた人が

いてくれたから、乗り越えられました。私もそんな寄り添える存在になれたらと思っています。これからもひとりでも悩まず、一緒に泣いて笑っていききたいです。

Colabo活動の歴史

2011年 5月 任意団体「Colabo」設立

2011年 6月 東日本大震災復興支援事業を開始

震災後、当時学生だった仁藤がボランティアで石巻の避難所をまわる中で、孤立する中高生と出会いました。震災を受け「何かしたい」と思っているが支援の対象としてしか見られない中高生の存在や、地方でも家庭や学校で孤立し困窮状態にある高校生の存在に気づき、彼らが担い手になれる活動づくりのため、宮城県女川高等学校・大沼製菓(石巻市)と協働し、支援金付菓子「たまげ大福だっちゃん」を商品開発。支援者の協力のもと、全国の学園祭などで販売し、3ヶ月で4万個完売。計75万円の支援金を高校に寄付しました。

女川高校は県内でも有名な、困難を抱える生徒が多い高校でした。彼らは私たちに、どんな状況でも可能性を信じて進むことを教えてくれました。Colaboの活動はここから始まっています。

既に女川高校は閉校しましたが、お菓子は現在も大沼製菓の店頭、HPにて販売しています。

2013年 3月 仁藤の大学卒業にあわせて『難民高校生』を出版

団体を法人化「一般社団法人Colabo」となる

4月 夜間巡回・相談事業 開始

10月 食事提供支援 開始

11月 難民高校生を贈ろうプロジェクト 開始



『たまげ大福だっちゃん』とは？

3.11東日本大震災の大きな被害を受けた宮城県女川高校の生徒たちと共に開発したミニ大福セットです。石巻市・女川町にボランティアに足を運んだ仁藤が避難所で中高生と出会ったことから、Colaboを立ち上げるきっかけとなった最初の活動です。「自分たちから地域を元気にしたい!」「東北を応援してくれる人に感謝の気持ちを伝えたい!」という想いで開発し、売上の一部が復興のための支援金となります。



商品開発ミーティングの様子

2011年6月から3か月間、毎週ミーティングを重ねました。Colaboがコーディネーターとなり、地元の和菓子屋「大沼製菓」の協力の下、商品のコンセプト・素材・色・味・商品名やパッケージまで、高校生が中心となり考えました!

コンセプト・味

全国の人に、笑顔・幸せ・楽しくなってもらいたい!という想いから、「笑顔・幸せ・楽しくなれる」がコンセプト。子どもからお歳寄りまで愛されるお菓子になりました。



- 笑顔 レモンあん
- 幸せ トロチョコ
- 楽しい きなこランチ

○女川高校は2014年3月に閉校しましたが、商品の販売は続いています。卒業生の中には家を失い、仮設住宅で生活を続けている人もいますが、「前を向いて歩いていることを知って欲しい」と活動してきました。今は、それぞれが未来へ向かって歩みを進めています。この活動をきっかけに想いの輪が広がっていきました。大福開発エピソードは『難民高校生』後半をご覧ください!

○『たまげ大福だっちゃん』は大沼製菓の店舗、ネット通販で購入可能です。全国の学園祭やイベント等での販売協力も募っています。詳しくは大沼製菓へ。



2013年度 活動件数

(2013年3月～2014年2月)

- ・相談: 78件
- ・夜間巡回: 32回
- ・食事提供: 47件
- ・同行支援: 4件 (職場見学、勉強会)
- ・宿泊支援: 9件
- ・難民高校生を贈ろうプロジェクト: 49件
- ・講演・研修会: 25回 参加人数: 4590名

【寄付】

- ・会費収入: 60,000円 (会員5名)
- ・寄付収入: 30,000円 (寄付者2名)
- ・難民高校生を贈ろうプロジェクト: 65,000円 (寄付者15名)

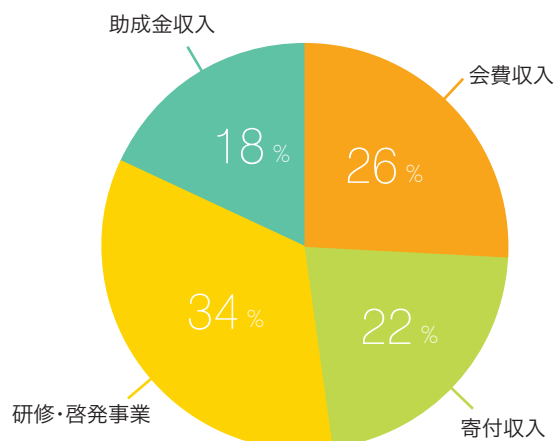
立ち上げ当初から、たくさんの方々に支えられ活動を続けています。
あたたかく見守り、応援して下さいみなさまに感謝しております。

2014年度会計報告

単位:円 (2014年3月～2015年2月)

収入	
会費収入	1,171,500
寄付収入	751,835
難民高校生を贈ろうプロジェクト	236,000
研修・啓発	
研修事業	1,180,000
啓発事業	310,000
助成金収入	
バルシステム市民活動助成金	500,000
全労済地域貢献助成金	288,600
収入合計	4,437,935
支出	
事務所家賃	700,000
光熱費	137,870
通信費	241,826
会議費	51,731
食材費	84,471
人件費	1,296,000
交通費	392,400
書籍代	98,800
印刷費	22,020
消耗品費	32,980
支出合計	3,058,098
繰越金	
当期収支差額	1,379,837
前期繰越金	315,461
今期繰越金	1,695,298

収入の比率



会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

142
名

サポーター会員

103
名

資金寄付者

134
名

物品寄付者

33
名

118冊分
難民高校生を贈ろうPJ

様々な形で活動を支えていただき、みなさまの想いと行動に心より感謝しています。

寒空の下、毎年薄着で寒さをしのいでいたという少女に出会い冬服の募集を開始、生理用品を買えずおばあちゃんの介護用品で代用しているという少女との出会いをきっかけに生理用品を募集開始、病院に入院していたり、連絡手段を持たない少女から公衆電話よりSOSをもらうようになったことからテレフォンカー

ドの支援をお願いしました。必要としているものをすぐにご支援くださりありがとうございました。

ご支援と一緒に送っていただいたメッセージは、少女にも伝えさせていただいています。みなさまの想いをうけて、「お礼の手紙を書きたい!」と、この報告書にも少女たちがメッセージを寄せてくれました。みなさんは、少女の可能性を信じ支える仲間です。これからもよろしく願いいたします。

2014年度、以下の物品をご寄付いただきました

●書き損じハガキ、未使用切手

郵送料として使用します。

●図書カード、商品券

少女へ贈る本や、必要な物品購入に使用します。

●テレフォンカード

夜間巡回時に会おう少女や連絡手段を持たない少女に緊急連絡用に渡しています。

●制服

中高生だけでなく、困窮し春から進学する中学校の制服が揃えられずにいた小学生にも贈りました。

●10代の少女向け新品・美品の冬服

冬服を買えず、薄着で過ごす少女へ贈りました。

●食品

困窮した少女に贈るほか、食事提供支援で使用。パスタソースや鍋の素、乾麺、カレーのルー等は、自炊をするきっかけにもなっています。

●農産物

全国からお米や果物等のご支援をいただきました。果物や地方の名産品は食べる機会がない少女も多く、大変喜ばれています。

●電子機器 (iPhone、iPod、iPad、ノートパソコン)

相談事業に使用します。

●使い捨てカイロ

夜間巡回時に会おう少女や、冬服を買えず薄着で寒さをしのぐ少女に贈りました。

●日用品 (生理用品、ハンドクリーム、リップクリーム、制汗剤、入浴剤、メイク落とし、消臭スプレーなど)

困窮し、生理用品が買えずにいたり、シャワーに週数回しか入れない少女もいます。日々の生活で少しでもリラックスした時間を持つよう、入浴剤なども贈りました。

Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！

お茶／ジュース／レトルトカレー／パスタソース／スープ／調理器具 (鍋・ざる・ピーラーなど)／プロジェクター／

シュレッダー／ラミネーター／デジタルカメラ・USBメモリー／レーザーポインター／ホワイトボード／印刷用紙・

インク／封筒等事務用品／充電器／少女と観たい映画／DVD／カミソリ／など



支援者からの服をあてているところ。この後精神科に入院し、この服をジャマとして使用していました。



いただいた七面鳥と食材でクリスマス会。「クリスマスはお母さんが彼氏と過ごすから、私はいつも1人だった。こんなに大勢で食卓を囲むのは初めて」と少女



「はじめてホカロンやハンドクリームを使った」と、話してくれました。



着なくなった制服を後輩へ。



地方の少女や児童養護施設などで暮らす少女にも、年に数回物資を送っています。



みんなでおしくいただきました。

感謝は少女たちと日々を重ねることで、お返しさせていただきます。

ご支援のお願い

■ Colabo の支援方法について

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。
継続して活動を支えるサポーター会員や、活動資金や物品寄付、
「難民高校生を贈ろうプロジェクト」など様々な形でご支援していただけます。
会員の方へは、報告会や勉強会のご招待や活動報告書を送付させていただきます。
**会員申し込みやご寄付は、お礼の連絡や報告をさせていただくため、
ホームページよりご連絡の上、右記口座にお振込みください。→→→→→→→→**

会員	年会費 / 1口：6,000円
寄付	活動資金 物品（随時必要な物をHPに掲載しています）
難民高校生を贈ろうプロジェクト	1口：2,000円 1人の中高生に本「難民高校生」を贈ることが出来ます。詳しくは裏表紙へ
一時シェルター開設・運営応援（シェルターの1日オーナー）	1口：30,000円

1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。（1日運営する費用がまかなえます。）365日開設を目指し、支援を募っています。虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられないとき、夜間に駆け込める場所はありません。「今日過ごすところがない」という少女たちが自ら駆け込めて、まずは一晩過ごせるシェルターを開設したいと計画しています。シェルターの開設・運営には資金が必要です。この寄付では、1口で1日運営する費用をまかなうことができます。ご支援よろしくお願いたします。

ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行から）

[記号] 18180-2
[番号] 3692211
[名義] コラボ

ゆうちょ銀行（他金融機関から）

[店名] 八ー八（ハチイチハチ）
[店番] 818
[口座] 普通 0369221
[名義] コラボ

三菱東京UFJ銀行

渋谷中央支店
[普通] 0363448
[名義] イッパンシャダンハウジンコラボ

支援者の方からのメッセージ

私はしがいない50歳のおばちゃんです。息子しかいないので、どんなものが喜んでもらえるか考えながら、買い物も照れてしまいました。私も虐待されて、小学生のときからずっと家出を考えていました。あなたがこの物資を受けとったということは、援けてくれる大人に出会えたのでしょうか。どうか頼ってください。そして、おばちゃんの年齢になったとき「あんな時代もあったな」と懐かしく振り返ることができるといいな。あなたの幸せを祈っています。
兵庫県 女性 千さん

私も若いころ性被害に遭いました。30年経った今も忘れることはできません。このことは夫にも友人にも誰にも相談できず、今まで抱えてきました。こんなに大きな心の傷になることを今も多くの女の子が毎日背負っていると思うと、悔し涙が止まりません。今、心の中に詰まっていた石を、やっとどけることができたと感じています。一人で多くの女の子に「一人じゃない」と思ってもらいたい。できる支援を続けていきます。
神奈川県 女性 Fさん

トラックの運転手の仕事の合間に、農業をしています。私の作ったお米が皆さんの元気の源になればうれしく思います。身体を壊さないように、たくさん食べてください。お米がなくなったら連絡ください！
滋賀県 男性 有木さん

私は日系企業のインド拠点に勤務しております。インドは経済成長の過程にありますが、貧困、差別、暴力、人身売買等が当面のように行われ、小学生くらいの子供が学校にも行かず危険な仕事、物乞いをさせられ大人が搾取している状況をよく見かけます。仕事で東南アジアに頻繁に行きますが、少女を買春するためにやってきた日本人グループを農村で見かけます。少女の親が貧困、ドラッグを購入するために自分の娘を売り、日本人男性がそれを買っています。私はどこにいても会社勤めのオジョサンです。日本でも同じように子どもたちが買われていることを知り、金銭面だけでも協力できればサポーターとなり応援させていただきます。
インド 男性 西さん

少女たちからのメッセージ

洋服 や日用品など、たくさんの方のクリスマスプレゼントをありがとうございます。私は幼いころから、あまり洋服を持っていませんでした。親にとって私がかわいくないからか、買ってもらえませんでした。小学校では「貧乏」「地味子」といじめられ、中学生になってからこれまで、どこへ行くときも制服しか着ないように生きてきました。でも、私もあと3ヶ月したら、高校生活も終わりです。制服も卒業しなければなりません。「大学へ行ったら服、どうしよう。またいじめられないか」と不安になっていたとき、洋服がたくさん届いて涙がでるほど嬉しかったです。大切に大切に使います！
福岡県 19歳 Rさん

高校 を辞める前、私は寂しさや孤独で売春をくりかえしてました。誰かと一緒にいられてご飯を食べられるだけで、家にいるよりよかったです。私は軽度の知的障害があり、小学生の時からいじめられ、親からも殴られてきました。友達もいない。今も家では誰も会話なく、洗濯やご飯も別です。幼い妹のことを可愛がる両親に嫌な気持ちになるのを抑えるため自分を傷つけてしまうこともあります。一緒に考えてくれる大人と出会えてよかったです。今はバイトを頑張っています。
愛知県 17歳 Jさん

夢乃 さんに会うまでの私は、よく夜の街にいました。自信がなく、どんな理由でもいかに誰かに認めてほしかった。私が存在していいんだと思える理由がほしかった。Colaboの大人たちと一緒にご飯を食べたり、関わっていくうちに私の心は変わっていききました。今まで私は「性欲を満たすモノ」としてだけ扱われていました。そんな私が、ひとりの人間として受け入れてもらえたことが嬉しかったです。「私はここにいたいんだ」と、自然に笑顔になれました。夢乃さんと出会ってから、夜の街に出かけたことはありません。将来、誰かの助けになれる仕事に就きたいと思っています。今度は私が誰かを支える。幸せの連鎖をつくりたいです。
東京都 高校3年生 Aさん

私 がColaboに出会ったのは高校2年生の夏でした。当時、学校もつまらなくて家にも居心地が悪く、信用できる大人がいませんでした。信じてもらっての繰り返しだったので大人は嫌いでした。自分を大切にしたいと思えず、体を売っていました。でもゆめのさんと会った日に、初めて会ったとは思えない感じがして、普段人には言えないようなことも相談できました。今も、悩みがあって、自己解決出来なかつたり、周りの友達に相談しても解決しなかつたときは、Colaboのお姉さんに相談するようにしています。親身になって話を聞いてくれて、自然とんでも話せちゃいます。今、何かに悩んでたり人に言えない悩みがある人は勇気を出して声を届けたり、何かヒントが貰えると思います。私も後輩を支えられるような存在になりたいです。
千葉県 高校3年生 Eさん



難民高校生

仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月 25 日を過ごす”難民高校生”だった。
一家庭と学校に居場所を失い、渋谷の街を彷徨っていた「私」。
「女子高生」に群がる大人たちの欲望にさらされ、「仲間」からは裏切られ、
人間不振に陥り高校を中退。人生に絶望した「私」の前に現れたのは一人の講師だった—

英治出版
¥1,500円(税別)



台湾でも翻訳版が
出版されています！



女子高生の裏社会

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地域は安全だ」そう思っている大人にこそ、読んでほしい
「女子高生」を狙う J K 産業で働く少女たちの身に何が起きているのか。
少女たちの本音から、解決策を探る。

光文社新書
¥760円(税別)

講演・ワークショップご依頼の方へ

「最近の若者はわからない・・・」「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか？」
困難を抱えた子どもの現状や若年女性の貧困について、居場所づくりについて、一緒に考えてみませんか？
「居場所や社会的つながりをもたない高校生」「性的搾取の対象になりやすい少女」「学校での学習に困難を抱える高校生」「SNS の危険」など、
青少年を取り巻くさまざまな問題、実態についてお話しします。講演会、高校や大学での出張授業、研修や勉強会、イベントなどにお呼びください。

難民高校生を贈ろうプロジェクト

居場所がない、生きる希望がない、頼れる人や相談できる人がいない、性暴力を受けている、いじめ、虐待、ネグレクト、親や教員とすれ違いの日々… そんな高校生たちに、本『難民高校生』を贈りませんか？
※1口2000円で、1人の高校生に、『難民高校生』を届けられます！ 本には、仁藤からのメッセージを入れ、高校生に贈らせていただきます。

夜の街歩きスタディーツアー参加者募集

子どもたちの目線で街を歩き、どのような危険があるか体感しながら学ぶツアー。街を歩いた後研修を行い、少女たちを取り巻く現状を解説します。月数回の開催日のほか、5名以上の団体でお申込みの場合はご希望の日時でご案内いたします。
【所要時間：3時間半 参加費：6000円】参加費は孤立し困窮状態にある少女を支える活動に使用させていただきます。



一般社団法人Colabo

お申し込みはこちらから

<http://www.colabo-official.net>

メール info@colabo-official.net

スマホ・携帯からは
こちらから

